

1. 件 名：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構との審査の進め方に関する面談

2. 日 時：令和4年10月11日（火）9：00～10：00

3. 場 所：原子力規制庁10階南会議室（テレビ会議）

#### 4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 研究炉等審査部門

志間安全規制管理官（研究炉等審査担当）、来住管理官補佐、真田係長、有吉係員  
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

安全・核セキュリティ統括本部 奥田 本部長代理 他3名

新試験研究炉準備室 室長 他1名

バックエンド統括本部 本部長代理

大洗研究所 環境保全部 部長 他3名

#### 5. 要 旨

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「機構」という。）から、「もんじゅ」サイトに設置する新たな試験研究炉の概念設計及び核燃料物質の集約について、機構の検討状況の説明があった。

原子力規制庁（以下「規制庁」という。）から、以下の点を伝えた。

##### （1）「もんじゅ」サイトに設置する新たな試験研究炉の概念設計

- ・もんじゅの廃止措置を進める上で、近傍に設置する新たな試験研究炉の設置がもんじゅの廃止措置計画に及ぼす影響を確認しておく必要があると考える。本件について、もんじゅ廃止措置安全監視チームにて議論することについて、規制庁内で検討のうえ、別途連絡する。
- ・既存の国内の試験研究炉と比較した場合の新たな試験研究炉の特徴を教えてください。
- ・機構、京都大学及び福井大学の3者により検討を進めているとの説明を受けたが、3者の役割分担はどのようなになっているのか。
- ・新たな試験研究炉の許認可申請及び申請に係る行政相談の対応は、今後、試験炉班が担当することになることから、機構の検討状況について担当者間の情報共有を図ること。

##### （2）核燃料物質の集約

- ・核燃料物質の譲渡、承継及び処分について、規制制度上の課題があるとしているが、具体的にはどのような点に課題があると考えているのか。

これに対し、機構から、以下の説明があった。

(1) 「もんじゅ」サイトに設置する新たな試験研究炉の概念設計

- ・新たな試験研究炉の特徴について、既存の国内の試験研究炉と大きな差はないと考えているが、ニーズ調査を踏まえ、炉内に冷中性子源を設置することを予定しており、この点は、既存の試験研究炉と比べて特徴的な点と考えている。
- ・3者の役割分担については、機構は試験研究炉の概念設計やサイトの調査、京都大学は研究ニーズの調査や人材育成の観点での検討、福井大学は地元産業界との橋渡しなどが主な分担となっている。
- ・試験炉班とは、進捗に応じ、情報共有を図っていく。

(2) 核燃料物質の集約

- ・核燃料物質の譲渡、承継及び処分について、現状、規制制度が整備されていないとは考えていない。一方、核燃料物質の処分について、処分ありきではなく、再利用する、あるいは、諸外国のように酸化物等の処理をした上での保管等、全体としてどのように対応するかについて体系的な整理が必要と考えている。

なお、配付資料のうち、原子力規制庁研究炉等審査部門等における JAEA 許認可審査案件については、時間の関係で次回の面談で議論することとした。

6. 配布資料

文部科学省委託事業「もんじゅサイトに設置する新たな試験研究炉の概念設計及び運営の在り方検討」における概念設計の状況について

核燃料集約に関する打合せにあたり

原子力規制庁研究炉等審査部門等における JAEA 許認可審査案件

以上